

## 「教科担任マイスター制度」実践紹介

「教科担任マイスター制度」は、“教育山形「さんさん」プラン”の一環として、昨年度からスタートし、小学校16校、中学校2校で実施されました。OJTの実効性を高め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するとともに、教科指導力の向上を図り、児童の学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化をねらいとしています。

教科担任マイスター配置校における、学校の体制づくりやマイスターとしての実践を紹介します。

### 山形市立第四小学校

#### 【学校の体制】

マイスターが、週の2～3時間を他学年の算数科の授業を参観したり、T1 または T2 として授業を行ったりして、全学年の算数科の授業に関わることができるように時間割が調整されている。

#### ○校内 OJT の活性化

- ・算数科の授業づくりでは、複数の教科書を比較して単元の配列について考えたり、学習指導要領の大事にしたいポイントを確認したりして、マイスターと若手教員が共に教材研究を行った。マイスターが算数科についての相談役となることで、校内での研修環境を充実させることができた。
- ・昨年度から週に1回程度、「小さな学習会」として、研修する機会を設けた。今年度はそれをさらに充実させて、学級担任が成果や課題を共有し、日常的に研修を積み重ねたことで、授業づくりや児童理解等について全職員で理解を深めることができた。

#### ○教科指導力の向上

- ・マイスターが、各学級の算数科の授業を参観し、学習内容の系統性を意識した単元構成や必要感のある課題設定、教師の働きかけなどについて助言した。
- ・授業研究の前には、目指す子供の姿やこれまでの子供の姿を基に、マイスターと授業者が共に単元を構想した。子供が算数・数学の見方・考え方を働かせて学ぶ姿を想起しながら、具体的な指導の流れについて考えた。



【「小さな学習会」教材研究の様子】

### 天童市立山口小学校

#### 【学校の体制】

低学年、中学年、高学年のそれぞれで、年間を通して算数科を中心として交換授業を行う教科担任制が組織的に推進されている。

#### ○校内 OJT の活性化

- ・週に4時間程度、マイスターが他学級の授業を参観することで、子供の育ちや授業づくりについて学級担任と共有することができた。また、その後の取組みについて相談するなど、職員間でのコミュニケーションを大切にすることで、日常的・継続的に授業改善を図ることにつながった。

#### ○教科指導力の向上

- ・教科担任は、2学年分の教材研究をすることで、学習内容の系統性をより理解して授業づくりを行うことができた。
- ・マイスターが授業検討会の運営を行い、算数科の発展問題の検討や振り返りについて研修する機会を設けた。子供がどんなことを思考するのか、どのように表現するのかなどを複数の教職員で検討・共有することで、数学的な見方・考え方について、理解を深めることができた。



【教科担任マイスターのグループ研修の様子】